

令和元年度

福島町議会定例会 6月会議

令和元年6月20日（木）

一般質問通告書

福島町議会

令和元年度福島町議会定例会 6月会議一般質問通告書目次

番号	氏名	質問事項	頁
1	川村 明雄	① 井戸水使用世帯の実態調査について	1
2	平沼 昌平	① 青函トンネル記念館の活用と第二青函トンネルの機運の盛り上げについて	2

令和元年6月13日
午前10時45分 受領

令和元年6月13日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

福島町議会議員 3番 川村 明雄



一般質問通告書

令和元年6月20日開催の令和元年度福島町議会定例会6月会議において、下記について質問したいので、福島町議会会議条例第63条第2項の規定により通告します。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
井戸水使用世帯の実態調査について	<p>井戸水から水道水への切り替え対策は、本年4月に文書質問していた処ですが、回答によりますと町内80戸程度が生活用水に井戸水を使用している現況のようです。</p> <p>昨年9月に発生した胆振東部地震によるブラックアウト時は、井戸水利用世帯の方はトイレの洗浄や臭気抜きができず生活に難を来したという声も聞き及んでおります。</p> <p>文書質問の回答では、引き続き公営企業会計として運営し、受益者負担を基本原則としており、井戸水から水道への切り替えの相談については、随時対応しているので、調査については、現在考えておりませんとして詳細な現状把握はされていないとのことでしたが、井戸水使用世帯の定期的な水質検査などについても住民生活の観点から、行政側での把握も必要ではないかと思いますが、現在ほどのような実態になっておりますでしょうか。</p> <p>幹線道路から遠方に居住している方までの配水管敷設は困難な面もあろうかと思いますが、国道沿いや主要幹線近傍などに居住している世帯については、配水管の敷設が比較的に可能と思われれます。</p> <p>本年、上水道から簡易水道に制度移行されたこと、給水戸数が減少しつつある現況等に鑑み、この機会に水道水の普及対策を進めるべく、井戸水利用世帯に対し、その実態や意向などについて調査を行っては如何でしょうか。</p> <p>80戸の聞き取りには時間も要すると思いますが、アンケートから着手することも可能かと思えます。</p> <p>町長のお考えを伺います。</p>	町長



注) 1 質問の要旨は、簡潔明瞭に記載すること。なお、記載外については、質問できません。
2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。

令和元年6月13日
午後1時25分 受領


令和元年6月13日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

福島町議会議員 6番 平沼 昌平 

一般質問通告書

令和元年6月20日開催の令和元年度福島町議会定例会6月会議において、下記について質問したいので、福島町議会会議条例第63条第2項の規定により通告します。

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>青函トンネル記念館の活用と第二青函トンネルの機運の盛り上げについて</p>	<p>本年、5月会議の行政報告に於いて4月22日に横浜市の独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構を訪問し、本年2月7日に立ち上げた「第二青函トンネル構想を実現する会」の内容と構想実現に向けた取り組みについて、当町の基本的考え方を説明し、情報共有並びに構想の実現に向けた支援要請等の意見交換を行ってきたと述べられている。</p> <p>当町の観光に対するパーツも6月から開始の福島町まちづくり工房に委託している岩部クルーズと二人の横綱を生んだ町、また、新十両一山本関が福島町役場職員として活躍していた町として、相撲環境の整った横綱の里づくりをベースにした横綱記念館、青函トンネル関連工事基地の町として、青函トンネル記念館があげられると思います。</p> <p>町長は第二の青函トンネルの実現に向けて実直な活動をされていると思いますが、2月7日以降、町民に対する機運の盛り上げが欠けている気がします。近頃は、JR貨物についての海上輸送を視野に入れた報道もされております。</p> <p>私は、青函トンネル記念館を情報発信の場として、町民の機運を高める必要性が有ると思いますし、その為には記念館の施設整備、広告看板、パンフレット等色々と考え、町民はもちろん町外の方々を巻き込んで話題性を広げる事も必要と考えますが、それらに対する考えと方向性を伺いたい。</p>	<p>町長</p> 

- 注) 1 質問の要旨は、簡潔明瞭に記載すること。なお、記載外については、質問できません。
2 質問の相手は、町長、行政委員会の長又は監査委員とする。